

なむ

謹んで新春を

お慶び申し上げます

住職 小野崎秀通



寅年を迎えました。虎は非常に扱い難い動物です。諺も沢山あり、例えば「虎を養いて患いを遺す」「虎の子を扱うように」「虎は子を思うて千里を帰る」などは、今日の親子関係を思い知らされる諺でもあります。親は大切に育ててきたはずなのに、思春期が近づいてくると豹変してしまふ。そしていつしか「キレる」こどもとなつていく。昨年児童生徒の暴力行為は約六万件にもものぼった

第5号

2010年1月1日

発行所

輝寶山 洞源院

電話 0225-24-1389

〒986-2135

石巻市渡波字仁田山 2

<http://www15.ocn.ne.jp/~dougengin/>

と報じられました。他人を傷つけ、自分をも傷つけ、イライラして苦しんでいる。怒りをうまく言葉にできない。キレやすい人は往々にして表現力が乏しいそうです。ゲームや携帯電話などに向かい、子供同士の遊びが少なく、親子の会話が減少して人間関係が希薄になっていくことが原因なのでしようか。自らの感情を止めて相手に伝えられる教育の対策を講じて貰いたいものです。仏教は社会みんなが向上し、幸せになることを説いています。

その基に七仏通誠偈しちぶつうけいという教えがあります。七仏は過去から釈迦牟尼仏に至る仏の共通した教えという事です。

- ・ もろもろの悪をなさず
- ・ もろもろの善をなして
- ・ 自らの心を淨くす
- ・ これぞ諸仏の教えなり

「悪をなさず、善をなせ、そして心を清くする」このことは、人間として命を頂戴したものの努めです。釈尊は人間の進歩向上と死

後の安らぎは、生前の行為（業）によると教えられました。それはいかに科学が発展しようとも、宇宙の真理です。

死後の世界も善業（よき行為）をなした者は天界に生まれ、悪業（あしき行為）をなした者は地獄に落ちる道理は歴然としています。仏教は天地の道理、大自然のめぐりと変わりませんから、人間の行為もそのことを基に善悪業を考え、己を反省し悔い改めることが大切です。食事をいただくことにおいても、命をいただいていることですから、罪をつくらないで生きることはできないのです。そこで懺悔をする働きが必要なのです。自らの心が清くなり、国土をも清くすると教えています。

年末年始は一年の行為を反省し悔い改め、軌道修正する誓いの月です。それが大晦日の除夜の鐘で、汚れた心を打ち除くことであり、修正する月、正月の過ごし方でなければなりません。

今年こそ 今年こそとは
今年もまた

大般若祈禱会

一月十八日（月）十時半より

東京ボーイズ講演十一時

昨年好評だったので今年も歌謡漫談を開催。
お誘い合わせてお参り下さい。

日常の仏教語

ろつこんしょうじょう

六根清浄

「どっこいしょ」の語源である六根清浄は、山岳仏教の行者が修行することによって心身ともに清らかになることを祈念して唱えられてきました。一般の登山者も山が荒れぬようにとの祈りから「六根清浄、お山は晴天」と掛け声をかけながら山登りするようになりました。



六根とは眼根・耳根・鼻根・舌根・身根の五官に内面的な心の働きである意根を加えたものです。それは六識を生み出す器官とその能力から、感覚器官のすべてを指しているのです。この六根の汚れを懺悔の力により取り去られ、心身ともに清らかになることが六根清浄なのです。

「どっこいしょ」は、単なる掛け声ではないのです。

お不動様



洞源院本尊脇仏として毘沙門天と対に、不動明王が祀られている。本尊聖観世音菩薩と共に鎌倉時代の作とされる。不動尊ともいい、動かぬ守護者を意味する。大日如来が一切の悪魔を降伏するため、忿怒身（ふんぬしん）を現された姿です。すなわち大日如来の使者であると共に、大日如来の变化身であり、仏法の守護神とされています。

その姿は牙をむき、右手に剣、左手に羂索（けんさく）をとり、左眼は斜視の相をなし、身は煩惱を焼き尽くす火焰の中にあり、盤石の上に住している。剣は煩惱を切り捨てる仏智慧の剣、羂索は縛って良い方向へ導くための縄、背後の火焰はあらゆる魔性や災難を焼き尽くす神聖な炎です。

脇侍の童子は衿羯羅（こんがら）童子が合掌し、随順を現し、制多迦（せいたか）童子が左手に金剛杵（こんごうきね）を、右手に金剛棒（こんごうぼう）を持って息災を現し、不動尊に侍している。

不動尊の使命は、衆生（世の

人々）を加護して福を与えよと大日如来の命令を受けて、忿怒の姿に変わって、諸々の魔障を降伏される。これを教令輪身といい、智慧の光明を持って自由自在に使命を達成される明王です。

死者の成仏を願う十三仏を信仰する最初の本尊が初七日の不動尊です。また、十二支の酉歳の守り本尊が不動尊です。御利益を願うご信心して下さい。



絵画に寄せる思い



洞源院本堂の隣室に、菅井洋さんの描画が掛けられています。菅井さんの話によると、「墓地から本堂に至る坂道の手前の左手に見事に咲き誇ったマーガレットの白と、本堂西側破風の赤のコントラストが新緑にマッチしてとても印象的だったし、この道が好きだったから描いてみた。」とのことでした。

菅井さんは小竹浜出身で一九九四年に郵政省の外郭団体「日本郵趣協会」のジュニア向け雑誌の編集長や同協会編集本部長の職を辞し、画業に専念しました。翌一九九五年上野の森美術展出品の秩父山村の廃屋を描いた風景画「気配」が、「緑豊で清々しい精緻な画風が、自宅にいながらにして自然の温もりを感じさせてくれる。」と評論家たちの好評を得、サンケイ新聞や月刊誌「太陽」「芸術公論」等で紹介され、一躍脚光を浴びる結果となりました。

その後一九九六年には、フランス芸術家協会名誉会長賞（ポール・アンピュー賞）に輝き、一九九八年一月発行の「芸術公論」新年号では、「日本のトップアーティスト」の一人として紹介されました。

都内や埼玉県内で何度も個展を開いていましたが、「故郷でも是非開催を」との声に促され、一

九九六年四月一日から五日迄、石巻市のナリサワギヤラリーを会場に個展を開き、一五〇〇余名の入場者を数える人気で、読売・毎日・河北・日々新聞の各紙に取り上げられたり、ラジオ石巻への出演依頼があったりと、その盛況ぶりを垣間見ることができました。こうして今後の活躍が大いに期待されていましたが、残念なことに昨年の夏、病に倒れて帰らぬ人となりました。ご冥福をお祈り申し上げます。



尚、写真の「小竹浜の夕景」はナリサワギヤラリーで開催された個展時の作品です。小竹湾の穏やかな水面に夕焼けの照り返しが好対照を成し、郷愁に浸らせてくれます。

活動報告

平成二十一年八月〜十二月

聖和学園陸上部合宿

八月二〜四日

お盆行各家庭巡行

八月十二〜十六日

大施食会（大施餓鬼会）

八月十七日午前十時半



- ・ 設齋供養（食事）
- ・ 講演【設楽宏二氏】
- ・ 大施餓鬼法要

設楽氏（東北大学国際交流センター講師）が、五月に日本文化講座を受講する留学生を連れて訪れた際のお礼として、留学生代表の二名と来院して「留学生から見た日本文化」の講演をいただきました。

留学生代表の二人も日本文化と洞源院を訪れたときの感想を述べました。

五月に来院した留学生達からも祈祷のお礼と、石巻の牡蠣養殖の歴史及び焼き牡蠣の美味しかった事、洞源院の絵葉書、境内と景色の良さなどの感想文が寄せられました。

第二回敬老の集い

九月十九日十時半



- ・ コカリナ・ミニコンサート
- ・ リフォーム
- ・ フアッションショー
- ・ 振り込め詐欺防止講話
- ・ マジックショー

【昼食会】

- ・ 踊り（カラオケ伴奏あり）
- ・ お楽しみビンゴ大会
- ・ 万石浦小学校音楽部演奏
- ・ 感謝の言葉

参加者を代表して檀家の末永成二さんが「皆さんと一緒にとても楽しく過ごすことが出来ました。出来れば来年も続けて欲しい」とお礼の言葉を述べました。

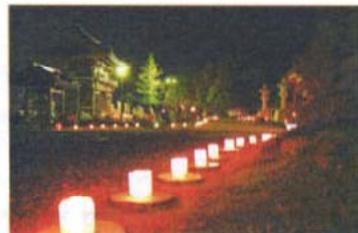
入彼岸 九月二十日

十一面観音永代供養
愛々動物供養

第十七回ちえぶくろ寺子屋寄席

十月十七日午後六時半

灯籠で幻想的に演出された境内と美しい夜景を背景に本堂で桂文生師匠の「氏子中（町の若い衆）」「蒟蒻問答」を堪能した。



第三回石彫会

十月二十五日午前九時

「てるてる地蔵さん」

文字通りの秋晴れの下、ちっちゃな手に大きな軍手、小学生が工具を片手にコツコツ、コツコツ。傍らでお母さんやお父さんも一緒にコツコツ。梅花講の皆様は余裕で皆を笑わせながらコツコツ。

野蒜石を使ってのお地蔵さん作りも三回目。回を重ねる度に参加者も増え、全部で七一体のお地蔵さんが誕生し、ご住職に開眼式をして頂きました。

無心な子供達が作るお地蔵さんは、なぜか皆優しい目をしていきます。きつとお地蔵さんに生まれ変わった石が喜んでいたのでしよう。

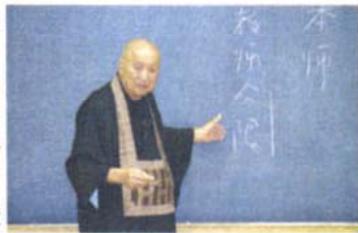
小さなお地蔵さんが山のお寺から皆を見守ってますヨク。

清風講演会「遺言・仏と教育」

講師 無着成恭老師

十一月八日午後一時半

石巻専修大学森口記念館にて女性コーラス ラ・シャンティー又の合唱の後、無着成恭老師による講演が始まり、終始ユーモアを交えた巧みな話術で聴衆者を二時間余り魅了し、大きな拍手をもって終わった。



たくあん漬け講習会

十一月二十八日午後二時

会員の石母田氏を講師に、ちえぶくろの会メンバーが美味しいたくあんを漬けました。

行事予定

平成二十二年一月～五月

大般若祈禱会

【一月十八日(月)午前十時半～】



御開帳の御尊像

おねはん会
仏の教えを聞く会

【二月十四日(日)午後一時半～】

彼岸巡行

【三月十七日～二十二日】

十一面観音彼岸会永代供養

【三月二十二日午後一時半～】

愛々動物供養

【三月二十二日午後二時～】

役員総会

【五月八日(土)午後二時～】

仏の教えを聞く会・花まつり

「やなせ なな コンサート」

く生と死を見つめる癒しの歌

大切な人との絆を振り返る

【五月十五日(土)午後二時～】

「行事予定の日時は都合により

変更の場合もあります」

やなせななさんの紹介

一九七五年生まれ。奈良県出身

シンガーソングライター

浄土真宗本願寺派僧侶

ガンと闘った自身の半生と仏教観などを織り交ぜた心に響くトークショー



二〇〇四年シングル『帰ろう』で全国デビュー。その後、シングル『街の灯』、『蝶々七夕』、『アルバム』、『あいのうた』、『遠い約束』をリリース。テレビCMソングや、ゲームのエンディングテーマなどに起用される。生と死を見つめる癒しの歌は、各地で静かな感動を呼び、中でも仏教系寺院でのコンサート&トークの地道な活動が話題となる。現在は「歌う尼さん」として全国で活躍中。

寺報紙名筆書募集

「なむ」の二文字をA4サイズの筆書にて募集致します。

採用者には図書カードを進呈致します。
【継続募集中】

新役員紹介

阿部正彦 塩富・万石町地区



木村光夫 栄田地区



鶴瓶・洞源院に来る

二月一日(月)、八日(月)夜八時～四十五分までNHK総合テレビにて放送予定。



来訪開口一番、「落語をやっているお寺って、ここでっか？」何の前触れもないのでただ驚くばかり。どんな放送編集になっていますか楽しみです。ぜひ見てください。

奉賛金のお願

洞源院開山九五〇年を記念し平成二十三年秋彼岸、三日間に亘り報恩法要、誓願会、講座等が開催されます。誓願会に出席された方には信心の証しとして、曹洞宗の輪袈裟が授与されます。この記念事業が円滑に行われるよう、檀信徒の皆様にご協力をお願い申し上げます。奉賛金につきましては、一戸当たり金九千円とさせていただきますので、二十三年の秋彼岸を目途に御協力賜われますよう、伏して御願ひ申し上げます。

実行委員長 仁杉圓一郎

編集後記

塩富・万石町地区担当役員 阿部七郎氏ご逝去 謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

寺報紙名「なむ」は七五三の祈願でお寺を訪れた渡波の森田瑛登君六歳の筆書きを採用させていただきました。

今回も皆様にたくさんのお意見や原稿をいただき、ありがとうございます。「檀家の声」も載せたいと思います。次号から始めることになりました。皆様の御協力をお願い致します。

後藤和男